

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 静岡県静岡市葵区追手町9番6号
管理機関名 静岡県教育委員会
代表者名 教育長 木苗 直秀

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 静岡県立榛原高等学校

学校長名 鈴木 安雄

類型 グローカル型

3 研究開発名

HAFプロジェクト HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT

～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～

4 研究開発概要

(1) 目的・目標

ア 住み続けられるまちづくりを実現するための課題発見・解決型学習の研究開発

イ パートナーシップで目標を実現する生徒を育成するための研究開発

ウ 質の高い教育を実現するための研究開発

(2) 概要

ア 特色ある科目や課外活動によって、グローバルな視野と国際感覚の醸成を図る。

イ 課題解決型学習の実践により、他者と協働的に学ぶ姿勢や批判的思考力を身に付ける。

ウ 英語による対話力やディスカッションの力を身に付け、コミュニケーションスキルを向上させる言語活動の充実を図る。

エ 産学官連携協力体制を構築し、フィールドワーク等を通して地域の企業研究と働くことの意義についての学びを深める。

オ 新教育課程施行に向けての教育課程研究を進める。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
堀川 知廣	静岡産業大学情報学部 学部長	学識経験者（ICT活用）
亀坂 安紀子	青山学院大学経営学部 教授	学識経験者（国際・金融経済）
菅野 文彦	静岡大学教育学部 教授 副学部長	学識経験者（教育）
渋江 かさね	静岡大学教育学部 准教授	学識経験者（NPO）
玉置 実	（財）静岡経済研究所 主席研究員	団体（地域経済）
田熊 元彦	株式会社伊藤園 生産本部副本部長兼静岡相良工場長	企業（学校運営協議会委員）
渡辺 浩	TDK株式会社 国内人材開発統括部人事部課長	企業（人材開発）

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
静岡県立榛原高等学校	校長 鈴木 安雄
静岡県教育委員会	教育長 木苗 直秀
静岡県	地域外交局長 影山 英一郎
牧之原市	市長 杉本 基久雄
牧之原市	教育長 橋本 勝
静岡大学	教育学部副学部長 村山 功
矢崎部品株式会社	ものづくり事業統括室リソースセンターセンター長付 大石 斉
ふじのくに茶の都ミュージアム	館長 熊倉 功夫
島田掛川信用金庫	会長 市川 公
牧之原市民	ファシリテーター 原口 佐知子

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	島田 桂吾	静岡大学教育学部 准教授	謝金
海外交流アドバイザー	望月 雄太	株式会社JTB静岡支店教育営業課	謝金
地域協働学習実施支援員	萩原 貴憲	牧之原市企画政策部地域振興課課長	謝金

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
HAFプロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育課程研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(2) 実績の説明

- ・県の事業として魅力ある高校づくりを推進ため，オンリーワン・ハイスクール33校を指定し，高等学校の特色や現状に応じた取組を支援した。今年度は，各校からの報告書を配布し，情報共有を図った。

- ・SSH指定校を除く理数科設置校9校をサイエンススクールとして指定し、国際的な科学技術系人材の育成及び地域における科学教室を実施した。連絡協議会を実施するとともに、報告書を配布し、各指定校について情報共有を図った。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な探究の時間（地域創造探究，榛高タイム）における地域探究学習	3	2	1	3		2	2	2	1	2	3	1
希望者を対象にした課外活動（イングリッシュキャンプ，国内研修他）					1		1		4	1	3	1
グローバル部等における課外活動（地域リーダー育成事業他）			2	2	1		1	1	1	1	1	

(実施回数)

(2) 実績の説明

ア 研究開発・地域課題探究の内容について

グローバル・リーダーを育成するため、課題発見・解決型学習の研究開発を行うとともに、産官学連携により、地域と一体となった教育活動の研究開発及び実践を行った。

イ 教育課程内における位置付けについて

過去2年間の研究成果を踏まえた学校設定教科（地域創造探究）・科目（地域創造探究Ⅰ～Ⅲ，発展地域創造探究）を設定し、本年度1年生から地域創造探究Ⅰ，Ⅱがスタートした。従来の記述評価から10段階の数値評価にまとめられるようになったことで、生徒が探究によって身につける力の度合いを強く意識するようになった。これまでもルーブリック表を生かした自己評価に加えて年度末に記述評価をしてきたが、一見すると明確な数値評価が、生徒のモチベーションを上げる一助となったようであった。また、教職員の役割や責任が明確になったことで、本事業内容についての当事者意識が強くなり、ともするとトップダウンによる弊害によって希薄になりがちであった教育活動に連携力が加わり、昨年度以上の活気溢れる活動を見せていた。

2年生の総合的な探究の時間（榛高タイム）については、本年度の活動も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2年生における本研究の中核事業である「シンガポール研修」が中止となった。この影響で、グローバル教育を中心とした研究開発は次年度以降に再延期することとなったが、研修先を国内に変更した昨年度の代替研究の成果があり、課題研究と発表を行うことができた。

ウ 教科横断的な学習とする取組について

カリキュラム開発により3年次の選択科目として加わった「家庭基礎探究」（2単位）が今年度からスタートした。1，2年次の総合的な探究の時間等の学習を生かし、「課題解決的な学習や探究的な学習を通して、家庭基礎の目標・内容に示された資質・能力を養成する。特に地域の生活課題に目を向け、自ら設定した課題解決学習を行うことによって、地域生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。」を科目の目標として、実施した。牧之原市役所，総合健康福祉センターさざんかなどに御協力いただき、職員の講話などを参考に、自ら課題を設定し、探究活動を行った。この科目は、来年度からの新教育課程においても「発

展家庭基礎」(2単位)として設置予定であり、グローバル型(英語を中心に学ぶ生徒)とサイエンス型(理数系科目を中心に学ぶ生徒)共に選択できるようになっている。

エ カリキュラム・マネジメント推進体制及び学校全体の研究開発体制について

総合的な探究の時間に関する学校設定教科(地域創造探究)の円滑な実施、また事業の最終年度に当たり、事業終了後を見据えた校内の体制整備を行った。

主な事業	業務内容	担当
教育課程内の活動	学校設定教科・総合的な探究の時間の推進	教務課, 進路課, 研修課, 学年部
	教科横断的取組	理数科, 教務課, 研修課
課外活動	国内外研修	研修課, 教務課
	グローバル部(部活動)	地域連携推進監, 部活動顧問
	地域リーダー育成プロジェクト	地域連携推進監, 進路課
その他の活動	新規事業の開発	校長, 副校長, 教頭, 研修課長
	広報活動	事務部, 図書広報課, 研修課

オ カリキュラム開発専門家等の位置付けについて

静岡大学教育学部島田桂吾氏(静岡大学教育学部とは連携協定締結済み)に依頼し、学校設定教科・科目の実施や国内外研修等の課外活動等について、定期的に指導助言を受けながら事業を推進した。また、島田氏に職員研修の講師を依頼し、総合的な探究の時間の教科化に伴う学習評価のあり方や探究的活動の意義などについて職員の理解を深めた。

カ 事業の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

事業計画を作成し、コンソーシアム代表者会議、運営指導委員会において協議し、事業を実施した。新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて変更の必要があった場合は、カリキュラム開発アドバイザーに助言を求め、より効果的な実施ができるよう努めた。

事業の検証については、教育課程内の活動では、生徒に振り返りシートを記入させ、担当者が確認して、評価に生かした。課外活動については、対象生徒と保護者にアンケートを実施し、その結果を事業に反映させることとした。また、2月に行われたコンソーシアム代表者会議と運営指導委員会において、事業報告及び今後の課題について協議した。

なお、本年度実施した校外研修についての事後アンケートでは、このような時期に体験を伴う研修ができたことに対して感謝する意見が多く見られ、ほとんどの生徒・保護者から本事業に対して高い評価が得られた。

キ コンソーシアムにおける取組について

昨年度に引き続き、以下の表のとおり、主に生徒の研修(課外活動等)について支援を得た。また、コンソーシアム代表者会議において、事業全般について指導、助言を得た。

コンソーシアム	支援内容
静岡県教育委員会	事業全体への支援
牧之原市	地域リーダー育成プロジェクト, 市長出前授業など
静岡県地域外交局	台湾とのオンライン交流
静岡大学教育学部	課外活動の支援, 校内研修, 教員研修受け入れ
矢崎部品株式会社	総合的な探究の時間支援(出前授業), 課外活動の支援
ふじのくに茶の都ミュージアム	課外活動への支援(フィールド・リサーチ受け入れ, 「茶」に関する講義など)
島田掛川信用金庫	総合的な探究の時間の支援(出前授業), 課外活動への支援(発表会他)
牧之原市民	市民によるファシリテーション研修

牧之原市小中学校	新型コロナウイルス感染症への対応により自粛
----------	-----------------------

ク 運営指導委員等専門家からの支援について

運営指導委員からは、コロナ禍における卒業生（大学生）へのフォローアップや地元の魅力を発信するなどのネットワーク作り、海外への情報発信など、オンラインの積極的活用について助言を得た。また、探究の成果を発表会等で発表するだけでなく、進学（進学先での学び）に生かせるようにすること、学校での学びをいかに実社会に繋げられるかが重要である、といった意見をいただいた。さらに、これからは、どこにいても世界に挑戦できる時代であるので、地元を目を向け地元の良さを知り、地元から世界へ挑戦することが重要であるという助言を得た。

ケ 趣旨に応じた取組について

グローバル型の趣旨を踏まえ、以下の取組を実施した。

○国内研修（海外研修の代替として実施）

研修先（対象・人数）	時期	内容
南九州 （1年生・20人）	12月22日～25日 （3泊4日）	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドリサーチ：ふじのくに茶の都ミュージアム，知覧茶講話，宮崎市内フィールドリサーチ ・課題研究（地域振興）：こゆ財団，青島神社，宮崎空港 ・平和学習：平和講話・史料館見学（知覧特攻平和会館） ・学校交流：宮崎県立宮崎大宮高校 ・自然体験，歴史・文化研修：砂風呂体験，鹿児島市内研修
北海道 （2年生・12人）	12月22日～26日 （4泊5日）	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドリサーチ：旭川市内研修，国立アイヌ民族博物館 ・課題研究（地域の産業・キャリア研究）：旭山動物園教育プログラム参加，北海道大学訪問，卒業生講話 ・学校交流：市立札幌開成中等教育学校

○発表会への参加

会の名称（対象）	時期	内容
Glocal Summit at Kaibara 2021（2年生 4人）	12月	文部科学省研修指定である兵庫県立柏原高等学校主催事業に参加。英語による発表。
2022年全国高等学校オンライン発表会（1年生 8人）	1月	1年生の代表が参加。「牧之原市の人々とペットを守る」（日本語），「Proposals on How to Attract Interest in Agriculture」（英語）。優秀校の発表を見学して，意見・質問。
HAF 研究成果報告会（1・2年生）	2月	3年間の研究開発について，コンソーシアム代表者，運営指導委員等に報告。全体会では，1年生「地域創造探究」の代表グループ，グローバル部，2年生有志による代表発表及び国内研修参加者のポスター発表。分科会では，クラス別に探究のまとめの活動。
第7回ふじのくに・大学フォーラム（1年生 4人）	2月	1年生普通科の1チームが，「牧之原市の人々とペットを守る」取り組みについて日本語で発表。新型コロナウイルス感染拡大によってオンライン開催。
WWL 静岡県高校生グローバル課題研究ポスターセッ	2月	1年生の理数科の1チームが，「農業に興味をもってもらおう」取り組みについて，日本語で研究発表。新

ジョン(1年生 4人)		型コロナウイルス感染拡大によって動画発表。
-------------	--	-----------------------

○ESD (ESL) 教育 (イングリッシュ・キャンプ)

研修場所(対象・参加者)	時期	内容
榛原高校内 (2年理数科全員, 希望者 28人)	8月	国内在住のネイティブ講師 12人を迎え, 3日間のキャンプを実施。

○学校交流等その他の活動

交流校	時期	内容
台湾高校生とのオンライン交流	10月 12月	高雄市立新莊高級中学と3年生37名, 雲林県福智高級中学とグローバル部1年生がオンラインで交流。
宮崎県立宮崎大宮高等学校 (WWL指定校) との交流	12月	2020年11月に学校間連携協定を締結。 南九州研修参加者(1年生20人)が, 宮崎大宮高等学校生徒と宮崎市内でフィールドワーク。遠隔会議システムで事前打合せ及びGoogle Classroomを用いた事前, 事後研修。
市立札幌開成中等教育学校 (IB指定校) との交流	12月	2021年3月に学校間連携協定を締結。 北海道研修参加者(2年生12人)が, 学校訪問。翌日, 両校生徒が北海道大学を訪問し, 講義, 研究所見学, グループワークなどを実施。
オーストラリアヒルズ学園とのオンライン交流	2月	1年理数科の生徒がお互いの国や文化について英語で発表。
シンガポール国立大学とのオンライン交流	3月 (予定)	シンガポール国立大学在校生及び卒業生によるSDGsについての講演会。1, 2年生の希望者が参加。

コ 成果の普及方法・実績について

本事業の成果については, 校内においては成果報告会の実施, 校外へは成果物を関係機関等に配布するとともに, 学校ホームページでも公開する等普及を図った。

なお, 成果報告会の概要は以下のとおりである。

・日 時	令和4年2月3日(木) 全体会: 午後1時15分~2時35分 (オンライン) 分科会: 午後2時50分~4時05分 各教室 (当日は, 代表発表以外のグループのポスター等を進取館に掲示する。報告会后, 2棟昇降口等に掲示する。)
・会 場	榛原高等学校進取館, 各教室
・参加者	管理機関(静岡県教育委員会), 運営指導委員及びコンソーシアム代表者 カリキュラム開発アドバイザー, 海外交流アドバイザー, 連携協力校他 榛原高校1, 2年生生徒
・内 容	<全体会> (発表者は進取館, 他の生徒は各教室) (1) 管理機関挨拶 (2) 学校長挨拶・3年間の事業の説明 (3) 代表発表 ・Glocal High School Meetings 2022 発表者 1年生代表2チーム

「牧之原市に住む人とペットを守る」(日本語)
「Proposal to be interested in agriculture (農業に興味をもってもらうための提案)」(英語)
・グローバル部「高校生が考えたオリジナルバスマップ」
・有志 静銀 アオハルし放題「静岡茶×スイーツのヒット商品を開発せよ」
(4) ポスター発表, 分科会の説明
・掲示してあるポスター等についての説明 「北海道研修」, 「南九州研修」
・分科会の内容の説明 「1年生地域創造探究」, 「2年生総合的な探究の時間」
(5) 講評 静岡大学教育学部准教授 島田桂吾 様 (カリキュラム開発アドバイザー)
(6) 全体会閉会・諸連絡・休憩
<分科会> 1, 2年生ともに, クラス別に探究のまとめの活動。

1.1 目標の進捗状況, 成果, 評価

今年度の目標に対する進捗状況, 成果, 評価は以下の表のとおりである。

設定目標	進捗状況(目標)	成果(延べ人数)	評価
外国語での コミュニケーション 能力の向上	英語検定2級以上合格者(100人)	合格者 114人	目標を上回る成果を得た。海外研修は、新型コロナウイルスにより中止。
	E S Lプログラム参加者(40人)	参加者 106人	
	海外希望研修(米国)参加者(10人)	参加者 0人	
	海外研修(その他)参加者(40人)	参加者 0人	
地域連携事業の推進	実社会プログラムへの参加者(55人)	参加者 103人	目標を上回る生徒が事業に参加した。
	企業訪問参加者(60人)	参加者 72人	
	地域リーダー育成事業への参加者(80人)	参加者 174人	
学習成果の発信	校内での成果発表の機会(4回)	7回	予定どおり実施できた。
	校外での成果発表の機会(3回)	6回	

本事業の大きな成果の1つは、「外国語でのコミュニケーション能力の向上」に顕著に見られ、英語検定2級以上を取得した生徒は今年度114人、準1級についても8人の生徒が合格した。地域連携事業の参加者数、学習成果の発信についても、目標を上回る成果を得ることができた。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、地域の外に出かけて直接交流したり、講師を学校に招いて講演会・研修会を実施したりすることが難しい状況が続いたため、昨年度、「地域人材を育成する高校としての活動指標」にオンラインを活用した学校間交流・研修会の実施回数を追加し、今年度は、オンラインを活用した講演会の実施、学校間交流、発表会への参加など、昨年度以上に様々な形で効果的に活用することができた。

3年間の研究により、海外研修以外の面ではICTを活用した遠隔会議システム導入の事例の蓄積を筆頭として、他の活動にも援用できる知見を得た。次年度は入学生から導入されるBYODを生かしながら、更に新しい形で生徒の学習機会と学力の保障を柔軟に行っていきたい。
<添付資料>目標設定シート